

芸術科教育課程・カリキュラム
再編のための調査研究
第1報

筑波大学附属駒場中・高等学校 技術・芸術科
市川 道和・遠藤 正之・土井 宏之

芸術科教育課程・カリキュラム 再編のための調査研究

第1報

筑波大学附属駒場中・高等学校 技術・芸術科

市川 道和・遠藤 正之・土井 宏之

1. はじめに

本校では、高等学校芸術科において、1, 2年次に、音楽・美術・工芸・書道の4つの科目を設け、4クラス160余名の生徒に選択必修で履修させている。4クラスの生徒が4科目に別れて履修することから、1科目の受講人数は概ね1クラス分の人数を基本として調整されることとなる。高校入学前に科目選択の第1, 第2希望を本人に申告させ、担当教師によって人数調整を行っている。当然のことながら、全ての生徒の第1希望を尊重することは不可能であるが、近年第2希望に振り分けざるを得ない人数が次第に増えてきており、いずれは振り分けが困難になる場面も予想される。このような現状を踏まえ、本年度より高校1年生に対して選択希望調査時の希望の根拠・理由等を調査分析し、間近に迫る新学習指導要領にも対応した高校芸術科の教育課程・カリキュラムの再編成の手がかりとしようというものである。

2. アンケート調査について

高等学校の1年生全員（160余名）を対象にアンケート調査を行った。調査項目の設問1から設問12までは主に入学前に実施する選択希望調査に関することである。設問13から設問15は授業評価とも絡んだ内容。設問16から設問20は近い将来の教育課程の再編も念頭に、生徒の意識、意向を探ろうとするものである。

<高等学校芸術科科目選択に関するアンケート調査>

選択した番号を○で囲んでください。 (複数考えられる場合は、もっとも比重の高い項目を選ぶこと) 文章で筆記の箇所は空欄に書いてください

1. 連絡進学者ですか、高校時入学者ですか
①連絡進学者 ②高校時入学者
2. 現在履修している科目は何ですか。

- ①音楽 ②美術 ③工芸 ④書道

3. 中学3年時の科目選択希望調査の時に第1希望とした科目は何ですか。(裏面に資料)

- ①音楽 ②美術 ③工芸 ④書道

4. 中学3年時の科目選択希望調査の時に第2希望とした科目は何ですか。(裏面に資料)

- ①音楽 ②美術 ③工芸 ④書道

5. 科目を選択するに当たり、参考としたものは何ですか。

- ①入学者説明会の時に配られた、各科目の資料
②中学の時の各科目の学習
③その他

6. 入学者説明会の時に配られた、各科目の授業内容の資料によって、選択科目決定に十分な情報が得られましたか。

- ①十分に得られた
②かなり得られた
③あまり得られなかった
④ほとんど得られなかった

7. 入学者説明会の資料項目の中で第1希望科目選択の根拠となった項目は何ですか。

- | 音楽 | 美術 | 工芸 | 書道 |
|----------|-------|-----------------|--------|
| ①声楽 | ①絵画 | ①工芸史 | ①古典の鑑賞 |
| ②器楽 | ②美術史 | ②木工芸 | ②創作 |
| ③音楽史 | ③彫刻 | ③ペーパークラフト | ③書道史 |
| ④ソルフェージュ | ④デザイン | ④陶芸 | ④拓本 |
| ⑤理論 | | ⑤コンピュータ・グラフィックス | ⑤篆刻 |
| | | ⑥日本民芸館見学 | ⑥表装 |
| | | | ⑦写経 |

8. 入学者説明会の資料項目の中で第2希望科目選択の根拠となった項目は何ですか。

- | 音楽 | 美術 | 工芸 | 書道 |
|----------|-------|-----------------|--------|
| ①声楽 | ①絵画 | ①工芸史 | ①古典の鑑賞 |
| ②器楽 | ②美術史 | ②木工芸 | ②創作 |
| ③音楽史 | ③彫刻 | ③ペーパークラフト | ③書道史 |
| ④ソルフェージュ | ④デザイン | ④陶芸 | ④拓本 |
| ⑤理論 | | ⑤コンピュータ・グラフィックス | ⑤篆刻 |
| | | ⑥日本民芸館見学 | ⑥表装 |
| | | | ⑦写経 |

9. 何を基準にして、選択科目を決定しましたか。

- ①興味、関心があるから
 - ②得意科目だから
 - ③不得意科目だから
 - ④担当教師
 - ⑤友人が選択するから
 - ⑥その他
10. 誰の意見を参考にして選択科目を決定しましたか。
- ①自分一人で
 - ②教師に相談して
 - ③親・兄弟に相談して
 - ④友人に相談して
 - ⑤その他
11. 選択科目の決定に際して、迷いはありましたか。
- ①第1・2希望とも迷わなかった
 - ②第2希望は迷った
 - ③第1・2希望とも迷った
12. 選択者決定に際しては、各科目に受け入れ可能人数の上限があるため、第1希望でそれを越える科目がある場合、機械的に第2希望により人数調整をしていますが、この方法に何か不満はありますか。
- ①不満はない
 - ②多少不満はあるが仕方ないと思う
 - ③大いに不満である
- <選択者決定方法に関して要望があれば書いて下さい>
13. 現在履修している科目のカリキュラム（設問7の項目）及び授業内容について、
- ①予想通りで満足している
 - ②予想通りだが不満である
 - ③予想と違うが満足している
 - ④予想と違い不満である
- <現在履修している科目のカリキュラム及び授業内容について要望があれば書いて下さい>
14. 現在履修している科目に対して主体的に取り組んでいますか。
- ①他教科の授業以上に
 - ②他教科の授業と同程度に
 - ③他教科の授業以下
15. 履修科目に対する関心・意欲は選択前（入学前）と比較して変化しましたか。

- ①高まった
- ②あまり変わらない
- ③低下した

16. 履修の形態について、現在、週に2時間ですが、

- ①週に2時間でよい
- ②週に2時間以上あった方がよい
- ③週に1時間でよい

17. 履修の形態について、現在、高1、高2で選択必修ですが、

- ①現行通りでよい
- ②高1の1年間だけでよい
- ③高3でも履修したい

18. 履修の形態について、現在、高1、高2で同じ科目を履修しますが、

- ①現行通りでよい
- ②高1、高2でそれぞれ違う科目を履修したい

19. 履修の形態について、仮に、高2で芸術と他の教科との選択履修であった場合どうしますか。

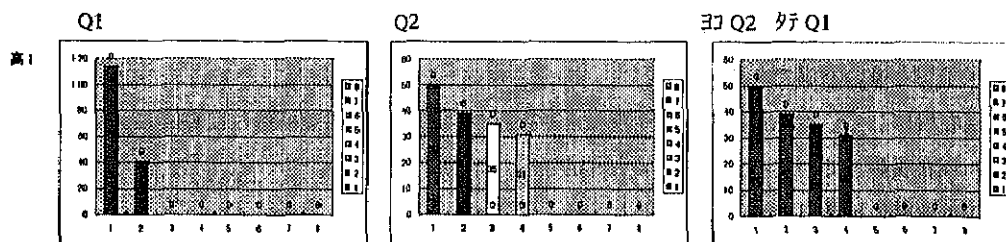
- ①芸術の科目を選択する
- ②他教科の科目を選択する
- ③組み合わせとなる相手教科によるのでどちらともいえない

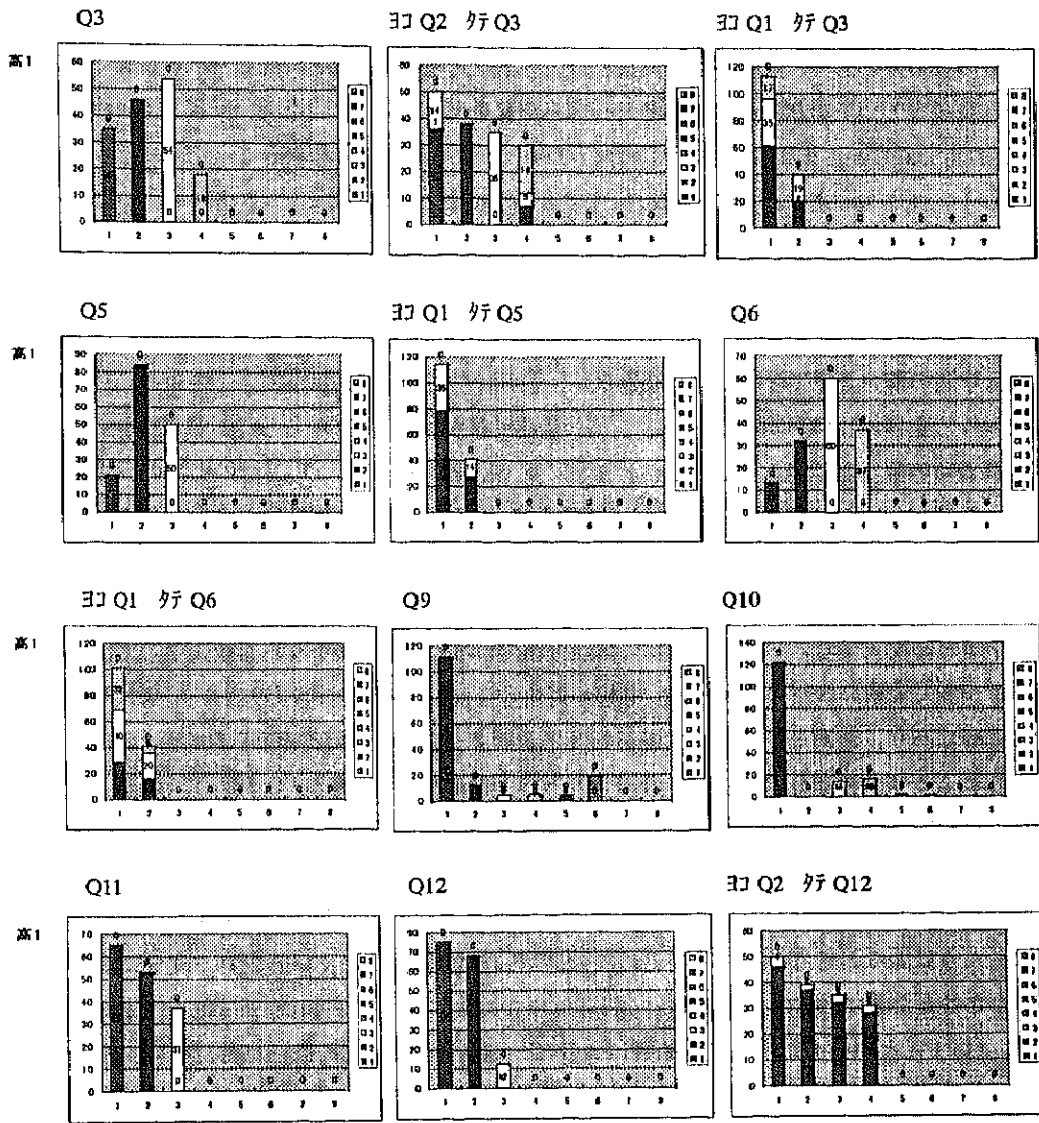
20. 履修の形態について、仮に、高2で芸術が自由選択であった場合どうしますか。

- ①芸術を履修する
- ②芸術を履修しない

<芸術という教科をどうとらえていますか、また何を期待しますか、自由に書いてください>

3. 調査結果データ





4. 調査結果の考察

本年度は上記調査項目のうち、設問1から12に限って、つまり選択希望調査に関する設問について調査結果の分析を試みたい。13番以降の設問に対する回答結果の分析は、次年度以降、データが蓄積された段階で総合的に分析したいと考える。また、履修科目ごとの分析も今後の課題と

し、本年度は全体の傾向を掴むことを目指したい。

分析の進め方として、設問の1から12について各々を単独で分析し、随時特徴的な違いが出てきそうな項目2つを選び、クロス集計を行いその結果分析をしたい。なお、高校1年生の在籍人数は163名であるが、欠席者、未記入者等のために、調査対象人数は156となった。

(Q1) 連絡進学者と高校入学者の比率は3対1である。(Q2) 各科目の履修人数はグラフのように、音楽50、美術39、工芸35、書道31である。この人数は教科の特性や教科教室の受け入れ可能人数を考慮して設定した数を基準に前後数名のところ調整したものであり、年ごとに大きく変えられるものではない。(Q1)と(Q2)をクロス集計して、科目ごとの連絡進学者と高校入学者の割合を見てみると、音楽が半々、美術は7対1、工芸は2対1、書道は15対1となっており、全体の比率が3対1であることを考慮するとかなり偏りがあることがわかる。(Q3) 選択調査時の第1希望の人数は、工芸、美術、音楽、書道の順で、(Q2)の実際の履修人数と音楽と工芸において大きく違っている。(Q2)と(Q3)をクロス集計してみると、美術と工芸の履修者は全員が第1希望の科目履修者であるが、音楽は3割が、書道では4割の生徒が第2希望の科目を履修していることになる。また、(Q1)と(Q3)をクロス集計してみると、連絡進学者と高校入学者とでは希望科目に傾向の違いがあることがわかる。高校入学者では工芸の希望者が多く美術の希望者が少ない。高校の美術と工芸の内容は、中学校においてはおおむね美術の範疇であり、美術を志向する者が美術と工芸の2つに分かれたと考えられる。(Q5) 選択のよりどころは全体としては、中学時の学習内容が過半数であるが、(Q1)と(Q5)のクロス集計を見てみると、連絡進学者は7割近くが中学時の学習内容を参考としているのに比べ、高校入学者では、説明会時に配付の資料を参考にした生徒の方が多い。これは当然といえば当然かもしれない。前述の(Q1)と(Q3)のクロス集計結果による高校入学者の工芸希望の多さはこのあたりによるとも考えられる。(Q6) 入学時説明会に配布している資料で十分に情報を得られたと答えた者は非常に少ない。全く得られなかった、あまり得られなかったを足すと7割となる。(Q1)と(Q6)のクロス集計によれば、連絡進学者にこの傾向は特に強く、資料を見過ごしている生徒も多いと考えられる。(Q9) 選択の基準は興味、関心によると答え、担当教師や友人との関係で選ぶ生徒はほとんどいない。(Q10) 選択は自分一人で行い、友人との相談はごく少数。(Q11) 第1希望は7割強の生徒が迷っていないが、第2希望で迷う生徒が6割程度いる。(Q12) 科目履修の人数調整に対する不満は多くはない。9割以上の生徒がシステムとして仕方ないと考えている。(Q2)と(Q12)とのクロス集計をみると、第2希望の科目を履修している生徒が比較的多い、音楽、書道履修者にシステムに対する不満を持つ者がやや多い。

各設問ごとに分析を試みたが、この結果から今後の課題を導き出し、改善できるところは改善し、次年度以降の調査内容も再検討したい。

各科目の履修人数と第1希望の数とが合致しないのは当然で、各科目の受け入れ可能数がほぼ固定されているからとは言え、希望者の数がそれにあうように誘導することは本意ではない。し

かし、各科目のカリキュラムや内容に対する情報不足による人数の偏りは是正すべく努力をした
い。上記の分析に見た、高校入学者の、美術希望者の少なさと工芸希望者の多さは配付資料の不
備、情報量の不足によるところもあると考えられる。今後入学者説明会時に配付の資料の再考が
求められよう。科目ごとの人数調整の仕方については、全体としてはシステム上やむを得ないと
考えられており、現状のままでよいと考える。

今年度の分析により、次年度に向けてすべきことを成し、また、調査を重ねデータを蓄積し、
最終的には芸術科の教育課程、各科目のカリキュラム改善に結びつけて行きたいと考える。